

# 第4回胎内市立中学校 再編検討委員会

～これまでの協議について～

胎内市教育委員会 学校教育課

# 胎内市立中学校再編検討委員会概要

## 【胎内市立中学校再編検討委員会設置要綱より】

### (設置)

第1条 胎内市立中学校の再編について検討し、望ましい学校教育環境の整備に取り組むため、胎内市立中学校再編検討委員会を設置する。

回	日	主な内容
第1回	令和5年10月23日	<ul style="list-style-type: none"><li>・教育長による検討委員会設置の趣旨説明</li><li>・胎内市立小中学校の適正規模等に関する検討委員会の答申内容と今後の方針の説明</li><li>・グループ協議(今後の方針についての意見交換)</li></ul>
第2回	令和5年12月20日	<ul style="list-style-type: none"><li>・グループ協議(10年後、中学校はどのような形態で、どのような場所に設置することが望ましいのか)</li></ul>
第3回	令和6年1月31日	<ul style="list-style-type: none"><li>・グループ協議①(仮に、4中学校を1つに統合したとして…中学校と地域とのつながりを保つには)</li><li>・グループ協議②(仮に、4中学校を1つに統合したとして…きめ細かな指導体制を継続するには)</li></ul>

# 第1回胎内市立中学校再編検討委員会グループ協議より

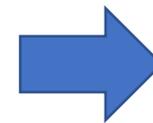
## 今後の方針についての意見交換

① 今後の生徒数の推移見込み等から、「10年程度の将来を見据え、市内4中学校の統合に向けた検討を進める」とした今後の方針について、どう思いますか。

グループ協議に参加した委員について、市内4中学校の統合に賛成とした方の割合は100%

② 市内4中学校の統合に際して、期待できる点(○)、疑問に思う点(●)はありますか。

- 学級編成が可能になり固定された人間関係が解消できる
- 中学校段階から大人数の集団生活に慣れることができる
- 大人数で生活することにより切磋琢磨し合う環境づくりやよりよい社会性を養うことができる
- 実施可能部活動数が増える
- 中学校をどこに建てることになるのか
- 通学の方法はどうなるのか
- バス通学、自転車通学の安全をいかに確保するか
- 中学校がなくなることで地域の元気がなくなるのでは
- 生徒数が多くなっても、1人1人に丁寧な指導・支援ができる、きめ細かな教育が行えるのか



第2回、第3回で以下の3点をテーマにしたグループ協議を行う

- ・設置場所及び通学方法
- ・地域とのつながり
- ・きめ細かな教育

# 第2回胎内市立中学校再編検討委員会グループ協議より

「10年後、中学校はどのような形態で、どのような場所に設置することが望ましいのか」

【案1-ア】市内4中学校を統合し、各地区からできるだけ等距離の場所に設置する **ふれすぽ胎内周辺**

- メリット
- 学校にかかわる施設(体育館、陸上競技場、給食センター、さわやかルーム、B&Gプール)が近い
- 駐車場が広く使えそう
- 道路が広く、バスが通りやすい
- 周りの企業と連携しやすい(職場体験学習等)

課題、不安、疑問	解決策
バス通学により時間に制限が生じる 黒川地区からの距離が長い	・スクールバスの増便やスムーズな運行方法の検討
民家が少ない、トラックの往来が多い、橋の幅が狭い等、自転車等による通学の安全面が心配	・大半の生徒をバス通学とする
工業地帯での事故や津波等による水害があったら、学校に被害が及ぶのでは	・工場との距離やハザードマップを検討し、より安全な場所に設置する
地域とのつながりが薄くなるのでは	・地域学習を胎内市全域に広げ、各地域の行事への積極的な参加を促す ・コミュニティ・スクールの仕組みを柔軟に変更(委員の人数や地域ごとの割当)

# 第2回胎内市立中学校再編検討委員会グループ協議より

「10年後、中学校はどのような形態で、どのような場所に設置することが望ましいのか」

【案1-イ】 市内4中学校を統合し、現在の**中条中学校やその周辺**に設置する

メリット	課題、不安、疑問	解決策
民家があり生徒への見守り体制がとれる	バス通学のための道路の確保	・アクセス道路の整備 ・現在の中条中学校のグラウンドを駐車場に
徒歩や自転車通学ができる生徒が増える	スクールバスや保護者用の駐車場の確保	・学校から少し離れた駐車場の活用
ハザードマップから水害の危険性が低い	バス通学生徒が中学校外（市体育館や陸上競技場等）で部活動を行う場合の移動方法をどうするのか	・レンタル自転車（使わなくなった自転車の寄贈） ・体育館をもう一つ作れば移動の必要が少なくなる
現在の中条中学校体育館や特別教室棟等、統合後も使える施設がある	中条中学校区以外の地域と学校とのつながり確保	・胎内市全域をフィールドにした地域学習の実施 ・通学バスのコミュニティバス（市内循環バス）化
旧中条体育館や中央公民館を含め、用地の確保が容易	中条中学校区以外の地域への配慮	・地域への丁寧な説明により理解を得る

【案1-ウ】 市内4中学校を統合し、現在の**胎内小学校周辺**に設置する  
メリット:バスが通りやすい、ハザードマップによる災害可能性の低さ

# 第2回胎内市立中学校再編検討委員会グループ協議より

「10年後、中学校はどのような形態で、どのような場所に設置することが望ましいのか」

【案2】 小学校の校舎を活用して、小中一貫型小・中学校を設置する

## メリット

小中合同の学校行事の開催

地域とのつながりが残る

小中いっしょのバス通学

## 課題、不安、疑問

中条中学校区での設置は児童生徒数から難しい

1学級の生徒数は増えない。特に小規模3中学校の生徒数については、今後1学級20人以下を大幅に下回る状況の改善は難しい

# 第3回胎内市立中学校再編検討委員会グループ協議より

## テーマ①「仮に、4中学校を1つに統合したとして…中学校と地域とのつながりを保つには」

課題、不安、疑問	解決策
これまでに4中学校で行ってきた地域とかかわる活動を、1つの中学校ですべて継続することが難しい	<ul style="list-style-type: none"><li>・各中学校で行っていた活動を地域と協議し、活動日を同じ日にして、一斉に行う</li><li>・胎内市全域をフィールドにして、各地域の人たちと一緒に課題解決に取り組む活動を積極的に進める</li><li>・全教職員も胎内市全体を学区としてとらえた地域理解を促進する</li></ul>
1中学校5小学校ということになると、小中連携の活動が希薄になる	<ul style="list-style-type: none"><li>・小学校ごとに中学校の連携担当職員を配置し、小中連携を積極的に行う</li><li>・小中学生による合同あいさつ運動等、日常的なかかわりを継続する</li></ul>
地域で行う、子どもが参加する行事が継続できるか	<ul style="list-style-type: none"><li>・中学生の地域行事への参加をさらに高めるため、地域との関わりの大切さなどについて、これまで以上に働き掛けを行う。</li><li>・祭りの日を休業日にしたり送迎バスを出したりするなど、中学生が胎内市全域の行事に参加しやすい環境をつくる</li><li>・中学生ボランティア等を導入し、参加を促す</li></ul>
統合までの準備が大切では	学校行事への地域の人たちの参画をこれまで以上に働き掛け、統合後の参画につなげる（体育祭や合唱祭など）

# 第3回胎内市立中学校再編検討委員会グループ協議より

## テーマ②「仮に、4中学校を1つに統合したとして…きめ細かな指導体制を継続するには」

課題、不安、疑問	解決策
4校の生徒が1校に集まることで、いじめ、不登校対策や学力向上など、教職員のチームワークが課題では	<ul style="list-style-type: none"><li>・学年の教職員全員が、その学年全員の担任であるという体制で、生徒1人1人への指導・支援に努める</li><li>・学習指導補助員や介助員等、市の配置職員を手厚くする</li><li>・地域からの学校支援体制をさらに充実させる（地域コーディネーター、地域ボランティア等）</li><li>・校務の見直しや効率化をさらに進め、教職員が生徒と向き合う時間を十分確保する</li></ul>
人間関係などの不安を抱える生徒が増え、その受け皿がないのでは	<ul style="list-style-type: none"><li>・学校生活に困り感を感じている生徒に寄り添い、支援する、校内適応教室やさわやかルーム等の対応を充実させる（関係職員の増員等）</li><li>・クラス替えにより、人間関係の改善などの対応を図る</li></ul>
教員の多忙化に拍車がかかるのでは	<ul style="list-style-type: none"><li>・PTA等による通学支援や地域ボランティアによる学習支援など、家庭や地域の支援、協力を得る</li></ul>
胎内市の中学生としての意識を醸成するため、統合前の交流が必要では	<ul style="list-style-type: none"><li>・交流活動の充実（複数中学校による修学旅行、体育祭、音楽祭、学年行事等）</li></ul>

# 最後に

【胎内市教育の基本理念】教育は人をつくり、地域をつくる崇高な営み  
【胎内市学校教育の重点】地域とともに歩む学校づくり



【「胎内市立小中学校の適正規模等に関することについて（答申）」より】  
胎内市において、子どもたちが、ふるさとを誇りに思い、これからの社会を切り拓いていく生きる力を身に付けられるような望ましい学校教育環境の整備に取り組むことが大切である。



子どもたちにとっての望ましい学校教育環境を整備することが最も優先すべきことであり、本委員会での意見をもとに、胎内市及び胎内市教育委員会は、4中学校統合に向け、設置場所、通学方法、地域とのつながり、きめ細かな指導などについてさらなる検討を行い、具体的な再編方針を定めていただきたい。